

愛媛大学プロテオサイエンスセンター PROSセミナー&大学院特別講義

病態生理解析部門主催

日時:令和8年9月28日(月) 17:00~18:30

場所:医学部総合教育棟2階 第2ゼミナール室

このたび、プロテオサイエンスセンター病態生理解析部門のセミナー&大学院特別講義を開催いたします。皆様のご参加、心よりお待ちしております。

自分と相手の性別に応じた適切な行動選択を可能とする 神経・分子メカニズム

東京大学 大学院農学生命科学研究科 水圏生物科学専攻 教授
大久保 範聡 先生

動物のオスは通常、メスに出会うと求愛して交尾を試みる一方、他のオスには攻撃を仕掛ける。それに対してメスは、気に入ったオスからの求愛を受け入れるが、自ら求愛や攻撃をすることはほとんどない。では、自分の性別と出会った相手の性別に応じたこれらの行動パターンは、どのような神経・分子メカニズムによってもたらされているのだろうか。

精巣を摘出したオスは、メスにあまり求愛しなくなり、他のオスへの攻撃性も低くなる。また、卵巣を摘出したメスは、オスからの求愛を受け入れなくなる。このような観察などから、オスの求愛や攻撃には精巣からのアンドロゲンが、メスの求愛受け入れには卵巣からのエストロゲンやプロゲステロンが必要であることが古くから分かっていた。しかし、なぜ通常のオスは他のオスには求愛せず、メスには攻撃しないのか。あるいは、なぜメスは求愛や攻撃を行わないのか。それらの行動選択を支えるメカニズムの実体は不明であった。

そのような状況の中、魚類のメダカを用いた我々の最近の研究から、それらの疑問に対する解答が得られつつあり、適切な行動選択を支えるメカニズムの実体もみえてきた。本セミナーでは、これらの成果について概説したい。

なお、本セミナーは医学系研究科を対象とした大学院特別講義としても認定されています。大学院生は、事前に学務課より配布されるレポート用紙に、講義概要及び論評を記述し、下記期限までに学務課大学院チームへ提出してください。※レポート提出期限：10月13日(火)

◆お問い合わせ：プロテオサイエンスセンター 病態生理解析部門 内線：(5)5925（今井）